

マザーハウス たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。

2017
4月号



このマザーハウスたよりは、公益財団法人日工組社会安全研究財団の助成より作成したものです。

《今月のイラスト》

*「教会の絵を載せてほしい」
とのご要望があったため、今月号の表紙は、教会のステンドグラスにしてみました。
* T 刑 F・K さん…p.4/15
* りなのパパさん…p.12/18

たより 4月号 目次

- | | | | |
|------|----------------------------|------|-------------|
| ● 2 | 理事長挨拶 | ● 16 | 塀の中のたより |
| ● 3 | ヴィパッサナー瞑想を
日常で深めるためのヒント | ● 17 | Lovely DAYS |
| ● 6 | 出所者の声 | ● 18 | 塀の外のたより |
| ● 15 | ささきみつおコーナー | ● 19 | 育児日記 |
| | | ● 19 | 行事予定 |

理事長挨拶



今年の4月16日は、キリスト教の復活祭です。復活祭の前には、四旬節という、キリストの受難を思い起こす悔い改めの時期があります。私にとっても、キリストの十字架を感じる出来事があり、その中でも大きなものが2つありました。

1つ目は、一昨年の12月に購入した中古車両が故障し、使用できなくなってしまったことです。

マザーハウスの活動のために、毎月1500km以上の距離を走り、出所者の迎えや、マリアコーヒーの販売、夜間に緊急に対応しなければならない案件が出たときなど、様々な場面で活躍していた車でした。その車が、総キロ数11万4000kmでダウンしてしまい、そのために活動に大きな支障が出ることとなりました。

現在、どうしても車両を使用しなければならないときはレンタカーを借りており、非常に経費がかかる状況にあります。しかし、多くの方々の支えにより、新しい車両の購入への道が開かれつつあります。本当に支援者の方々には、ただただ感謝です。キリストの復活の恵みであると思います。

もう1つの私にとっての大きな試練は、11ヶ月の長女、聖華が、鼠径ヘルニアで入院・手術したことです。

医師から、全身麻酔による手術であると説明され、不安が募りました。神様に祈り、手術室から出てきた娘を見た瞬間、涙が溢れました。小さい身体に酸素マスクや点滴の管がつけられ、横たわっている娘を見て、キリストが重い十字架を担ぎ、よろめきながら一步一步、歩んだ姿が目に見え、僕にとっては、大きな大きな痛み、苦しみ、悲しみの出来事でした。

この活動を始めて5年になりますが、なかなか回復の道へと導くことができない自分の不甲斐無さと、目の前で苦しんでいる人々のための愛の実践が不十分であることを実感し、もっともっとキリストの受難を理解して、キリストに生き、愛を実践することを祈り、悔い改めた時でした。

神様は娘を回復させてくださり、今は元気に過ごしております。娘のために多くの方々がお祈りしてくださったことに、心から感謝です。ありがとうございます。



この四旬節を通して、復活への喜びとキリストの愛をひしひしと感じております。

関わった少年や出所者たちが、社会復帰につまずいてしまったり、逮捕されてしまったり、本当に苦難の道が続きますが、幸いにも、彼らは回復への道を再び歩みたいと考えてくれています。そのことに感謝するとともに、彼らの生きる力、立ち上がる力を信じ、私やマザーハウスにできることを全力でやっていきたいと思っております。

また、先日、DV被害者の女性を支援した結果、その女性のアパートから火災が発生し、多くの方々に迷惑をかけてしまいました。

特に、不動産会社の社長には多額の損害を与えてしまいました。「普通なら、二度とこのような法人に住居を提供しようとは思わないだろう」と腹をくくり、謝罪をしに行きました。幸い、社長からは厳しい言葉をいただきましたが、今後ともマザーハウスを支援してくださることとなりました。何の力も無い私に、また、マザーハウスに、多くの方々が力と勇気を与えてくださり、本当に感謝でいっぱいです。



受刑者の皆さん一人ひとりに私が当事者として言いたいのは、社会の皆さんの考え方を变えるのは、皆さん一人ひとりの行いと、その愛の実践であるということです。

マザーハウスに対して、「支援してあげているという上から目線だ」とか、「何を偉そうなことを言っているんだ」とか、様々な批判の言葉をぶつけてきますが、よく考えていただきたいです。人を批判する前に、自分が実践して理解してから物事を言った方が良いと思います。それだけ社会の人々の目は、犯罪者に対して厳しいのです。そのことを、頭ではなく、心でしっかり理解していただきたいです。

再犯に走った後、マザーハウスに再び手紙を書き、「文通をしたい」「あれこれ送ってほしい」と言ってくる方が大勢います。その一人ひとりが、今までの自分の行いを自ら変えなければ、犯罪からの解放はできないと感じます。

先月の『たより』にも書きましたが、真剣に回復プログラムを実践してほしいです。何回も何回も繰り返す行いによって、必ず光が見えてきます。

このプログラムは、犯罪からの離脱そのものだと思っております。そして、闇から光へと歩む印だと信じています。

何度も言いますが、実践する・しないは皆さんの自由ですが、このプログラムは信仰を強要するものではなくありませんので、クリスチャンであるかどうかに関わらず、ぜひ実践してほしいと思います。

ヴィパッサナー瞑想を 日常で深めるためのヒント



イエズス会司祭 柳田敏洋

『マザーハウスたより』2016年1月号で「キリスト教的ヴィパッサナー瞑想の紹介」を書きましたが、今回は、ヴィパッサナー瞑想を日常の中で行なっていくためのヒントを紹介したいと思います。

1. あらためて「ヴィパッサナー瞑想」とは

今、「ヴィパッサナー瞑想」は、「マインドフルネス瞑想」として世界中に広がっており、特に、ストレスに巻き込まれて心の不安や悩みを抱える人たちに、心の解放と癒しを与える瞑想法として注目されています。

アルコール依存症や薬物依存症の人たちの治療、また、刑務所の受刑囚の人たちの心の安定のためにも効果があることが、研究や導入の結果として知られてきています。

ヴィパッサナー瞑想とは、「“今ここ”を、あるがままに、価値判断を入れることなく“気づく”」ことです。つまり、過去や未来やあちこちに彷徨いやすい心を“今ここ”に戻し、そして、“今ここ”で自分が体験している感覚（例えば痛み）、感情（例えば怒り）、思考（例えば「自分は何をやってもダメだ」との考え）を、「善い」「悪い」の判断や、「心地良い」「心地良くない」などの判断をせずに、また大きににするのでもなく、無視するのでもなく、ただありのままに気づくこと、そこに心の距離を取って注意を向けるのです。

例えば痛みの場合、「痛い、痛い」ではなく、「腰に痛みがある」と“気づく”ようにします。怒りの場合も、「相手の一言で、自分の中に怒りが湧いてきた」と“気づく”ようにします。思考の場合も、例えば「自分は何をやってもダメだ」との考えがふと湧いてきた時、「今、『何をやってもダメだ』と思った」と“気づく”ようにするのです。

この“気づき”を日常の様々な場面で実践するようになっていくのですが、身につけるためには、毎日、短時間でも静かに瞑想する時間をとることが大切です。

2. 瞑想の時間をとる

一日の中で、5分でも10分でも、時間を決めて瞑想するようにします。部屋の中で、椅子に腰かけて、あるいは座禅のように床に腰をおろして行っても構いません。その時は、座布団のようなものがあると良いでしょう。枕を坐布の代わりに使うこともできます。

3. 瞑想の意向を明確にする

瞑想する時、瞑想の意向を明確にすると、何のための瞑想かを理解したうえで行うので、より効果が出ます。

- 例：「どのような人間になりたいか」についての意向
- ・「心の自由と平和を生きる人間になることができますように」
 - ・「自分のあるがままを受け入れ、そこから人間として立ち直っていきますように」
 - ・「健全な心を育み、社会復帰を果たし、社会の中でふさわしく生活できる人になれますように」

…など



4. 決めた瞑想の時間の中で、基本となる瞑想を行います。

以下に紹介する瞑想を基本の瞑想として、毎日の決めた時間の中で行うようにします。

瞑想の時間を10分間とる場合の例：

- ・Aメニュー：最初の3分間は「呼吸瞑想」、次の7分間は「体感覚瞑想」を行う。
- ・Bメニュー：最初の5分間は「呼吸瞑想」、次の5分間は「歩行瞑想」を行う。

*応用として、決めた時間の中で、それぞれの瞑想を自分のやりやすいように配分していきます。

<基本となる瞑想>



①呼吸瞑想（お腹で呼吸に‘気づく’）

- 1) 目を閉じて、自然な呼吸で、意識をお腹に集中させます。
- 2) 吸うときに少し膨らむお腹の感覚に“気づく”ようにします。
- 3) 吐くときにへこんでゆく（元に戻ってゆく）お腹の感覚に“気づく”ようにします。

* 感じ取りにくい時、手をお腹に当てて感じやすくしても構いません。

* 意識の集中のために、お腹が膨らむときに「膨らむ」と心で唱え、お腹がへこむときに「へこむ（もどる）」と心で唱えることで、“気づき”を助けることができます。（注意：唱えることを「ラベリング」とも言います。その際、意識の10%程度を使って唱え、残りの90%程度は、実際のお腹の膨らみ、へこみの感覚に“気づき”続けるようにします。）

* 意識の集中が弱くなってくるのを感じたら、腰骨をゆっくりと立てるように姿勢を整えると良いでしょう。

②体感覚瞑想（身体感覚に‘気づく’）

- 1) 準備として、①の呼吸瞑想から始めます（相応しい姿勢をとり、腹部での呼吸に“気づき”を入れます。目を閉じて集中します）。
- 2) 準備が整ったと思ったら、頭部に意識を持っていき、頭部がそこに存在する感覚や、重さの感覚、顔・頭の表面の接触感覚、皮膚感覚に“気づく”ようにします。呼吸を10回数える間、意識を集中させます。
- 3) 同様に、右腕全体、左腕全体、胸とお腹、背中（腰とお尻も含めて）、右足全体、左足全体に対して、順に“気づき”を入れていきます。
- 4) 最後に、身体全体に意識を持っていき、身体がそこに存在する感覚と、接触感覚に“気づく”ようにします。



③歩行瞑想（歩くことに‘気づく’）

- 1) 自然な姿勢で立ちます。目は開けます。
- 2) 意識を両足の裏に集中させ、足の裏が床と触れている感覚に“気づき”を入れます。
- 3) 右足の裏に意識を集中させ、動きに伴う足裏の感覚の変化に“気づく”ために、丁寧に、一足分だけ右足を前へ運びます。そのとき、右足が床から離れ、前に運ばれ、かかとが床につき、そして足全体が床につく（踏み込む）感覚に“気づき”を入れます。
- 4) 右足の全体が床についたところで、意識を左足の裏に集中させ、右足の場合と同様に、一足運ぶ際の動きに“気づき”を入れます。
- 5) 一定の距離を歩いたところでゆっくりとリターンし、スタート地点に戻ります。これを繰り返します。

* 右足・左足への意識の集中を助けるために、右足を踏み込んだときには、意識の10%程度を使って「右」と心で唱え、左足を踏み込んだときにも同様に、「左」と心で唱えます（慣れてきたら、心で唱えずに行うようにします）。

* ゆっくりの歩行瞑想に慣れたら、普段の歩幅と普段の歩く速さで、歩行瞑想を行います。その際、右足と左足で意識を切り替えるための工夫として、それぞれの足の裏全体が踏み込まれた時にしっかりと“気づき”を入れていくと良いでしょう。平地だけでなく、階段などでも歩行瞑想を試み、普段の歩行でも歩行瞑想できるようにします。



* 応用として、以下のように、呼吸に合わせた歩行瞑想を行います。

- ・一足呼吸：ゆっくりとした歩行瞑想で、右足のかかとを上げ始めた時から息を吸い始め、一歩進んでかかとが地面についた時から息を吐くようにして歩きます。
- ・多足呼吸：通常の歩行による瞑想で、息を二歩で吸って、三歩で吐くようにして歩きます（心で1、2と数える間に息を吸いながら歩き、3、4、5と数える間に息を吐きながら歩きます）。息を吐く時間を長くするのは、心を穏やかにする副交感神経が活性化する助けとなるからです。

5. 1日の中で瞑想を応用していくヒント

1) 朝目覚めた時、布団の中で、呼吸に意識的に“気づく”ようにします（5～10呼吸）。

2) ベッドから起きる時、姿勢の変化に“気づく”ようにします。腰を起し、足をベッドから下ろし、立つ姿勢を意識して感じるようにします。

3) 顔を洗う時や、歯磨き、トイレ、服を着る時に、手足や身体の動作・感覚に“気づく”ようにします。ふと生じてくる考えや、その時の気分、感情にも“気づく”ようにします。

4) 部屋を歩く時、廊下を歩く時、階段を上り下りする時に、歩行に“気づく”ようにします（歩行瞑想）。

5) 食事の時、食べる瞑想として、口の中の食べ物を味わうようにします。時には目を閉じて、口の中の食べ物の柔らかさ、硬さ、温かさ、冷たさの感覚、食べ物を噛む感覚、舌の上に乗っている感覚、だんだんと柔らかくなっていく感覚などを感じるようにしてみます。一息入れるときのお茶の味に、丁寧に“気づく”ようにします。



6) 日中、ほんの少しの時間（ちょっとした時間の合間や、歩いている時、何かの作業の区切り目の時など）をとって、呼吸の“気づき”を行うようにします。

7) 人と話をする時にも、自分の心に注意を向けるようにしてみます。相手と話している時の自分の心の動きに“気づいて”みましょう。相手の話を聞く時も、椅子に座っている身体を感じたり、聞いている時の自分の中の考えや心の動きに“気づく”ようにしてみます。

8) 運動や散歩の時など、ほんの少しでも、歩く瞑想を心がけます。1分間でも50メートルでも構いません。歩く足の裏を感じたり、頬にあたる風を感じるようにします。

9) 電車や車の音、鳥のさえずり、風の音、人の話し声、食堂での音、作業場での音など、まわりから聞こえてくる様々な音を、「何の音であるか」「心地良いか良くないか」などを考えずに、あるがままの音として聞くようにします。

10) 時に、目の前に見える風景や物を、それが何であるかを問わずに、ただあるがままの色と形としてだけ見るといふ、見る瞑想を行なってみます。ほんの10秒でも構いません。

11) 緊張やストレスが生じた時、「今、緊張（ストレス）が生じている」と心で“気づき”、呼吸を味わうようにし、そこからあるがままに緊張やストレスを見つめるようにしてみます。

12) 怒りや不安などが生じた時も、「今、怒り（不安）が生じた」と心で“気づき”、呼吸を味わうようにします。怒りや不安を否定したり、フタをする必要はありませんが、それらの感情に“気づく”ことで心の距離を取り、怒りや不安から離れるようにします。

13) 頭にふと、考えや独り言、想像、空想が生じた時、「今、考えが生じた」「今、心に想像が現れた」などと“気づく”ようにします。

14) 活動や作業をしている時、その活動や作業そのものに“気づく”ようにします。パソコンを打っている指の感覚、工具を持っている手の感覚、本のページに触れている指の感覚、掃除をしている手や身体の手や足の感覚、また、そのような行動の時の心の動きなどに、少しでも“気づく”ようにします。

15) 夜寝る前に、布団の中で呼吸に“気づく”ようにします（5～10呼吸）。そして、呼吸に“気づき”ながら寝入るようにします。

6. 自分の‘気づき’について振り返ります

夜寝る前などに、自分の“気づき”について振り返るようにすると良いでしょう。

- ・どのような時に“気づき”やすかったか。
- ・どのような時に“気づき”が難しかったか（例えば、会話や考え事がある時など）。
- ・自分の“気づき”の傾向（パターン）は何か。

以上のように自分の“気づき”を振り返ることで、“気づき”にくいものにいつそう注意を向けて“気づく”ことができるようになり、感情や考えに流されなくなっていくと思います。

少しずつであっても、瞑想を続けることで、「今ここ、あるがまま」の中にある心の自由と平和を育てていってください。



出所者の声



出所者夫婦 Wインタビュー

＊誰の発言か分かりやすくするため、4月の名産物（たけのこ、あさり、夏みかん、キャベツ）を4人にそれぞれ割り当ててみました！

＊（イ）は、インタビューしているスタッフの発言です。

登場人物

たけのこ



<五十嵐夫婦1～結婚年数4年～>

- ・五十嵐弘志：元受刑者（出所後5年）。
NPO 法人マザーハウス理事長。
- ・五十嵐亜利沙：刑務所経験なし。
専業主婦。



あさり

<N & M 夫婦～結婚年数2年～>

- ・N：元受刑者（出所後4年）。
マザーハウススタッフ。
- ・M：刑務所経験なし。
職業はコンテンツ事業秘書。

夏みかん



キャベツ



自分のパートナーについて簡単に紹介



弘志くんは、とにかく優しい。もし生まれ変わっても、また結婚したい。ほんとに優しい。



今の活動をやっていけるのは、本当にありちゃんの理解があつてのこと。やっぱり、何でも受け入れてくれるっていう理解があるからこそ、。心の大きい人です。お母さんです。聖母マリアさまです。



顔はこわい（笑）。でも、優しいね。純粹かな。



俺がいなきゃ何もできない。放っておけないってかんじですね。

お2人の出会い



出会いは、マザー・テレサの修道院。ありちゃんがボランティアで行ってて、僕は受刑中からマザー・テレサの修道院とは付き合いがあったので、通ってて。そのときが初めてですね。



東京バプテストチャーチ（TBC）でね。きっかけはそこかな。教会の兄弟姉妹の交わり。

奥さんの、夫への第1印象



よくしゃべるなあつて（笑）。ずーっとしゃべってるんだもん（笑）。



第1印象は、（見た目が）こわいなあつて。でも、少年みたいな一面を、知り合う前に（見ていた）。教会の礼拝が始まる前、（Nが）オレンジの帽子をかぶっていて、あんまり見たことのない人があるなあと思っていたら、Nが嬉しそうにTBCの2階から下を見ながら、何か叫ぶっていうか、独り言を言っていて、「へえ～」って思つて。それが第1印象だったかも。本当に子どもっていうか、少年みたいな。その後（Nのことを）紹介されて。

出所者の方は、奥さんに過去のことをいつ、どのタイミングで話したのか

 最初会ったときに、僕はボランティア行った後は、ある修道会でミサにあずかるので、そこに行く予定だった。そしたら、彼女もそのミサに友達と行くと。で、電車の中で、「自分は刑務所にいた人間です」という話をした。

(イ) ありさんの友達の前でも？

 そうそう。

 初めから、交わりの時にその話を自然にすることができた。

(イ) じゃあ、みんなの前で…？

 うん。

出所者の方が過去を打ち明けようと思った理由

 打ち明けようっていうよりも、結局、(刑務所から)出てきてから、周りの人にはほとんど「自分は元受刑者です」と言っていて。そう言った仲間たちが普通に受け入れてくれたっていうか、(態度が)変わることは無かったので、自然に、普通に…。

(イ) 自己紹介みたいな感じで…？

 そんな感じですよ。ごく普通に。素(=自然体)の会話ですよ。

 理由はない。自然に。

(イ) 過去を話すことに抵抗は無かったですか？

 あった。自分は赦されたとは思ってなかった。

出所者の方は、過去をどのように打ち明けたのか(場面、話し方など)

 もともと「修道院で子どもたちに話をしてください」とお願いされていたので、「悪いことするとお母さんに怒られて…」とかいう話をして…そのときは話してただけ？

 なんかマザー・テレサのことを超言っていた。

 じゃあ、電車の中でごく普通に話したのかな。

(イ) Nさんも、やっぱり普通に？

 いや、お酒も入ってたからね。

 まあでも、自然に話せたし、自然な中で聞いてくれたから、自然なかたちで話せたのかなって。

(イ) じゃあ、お酒を飲んでちょっとハイテンションな感じで…？

 いや、全然(お酒を飲む前と)変わらないよ。

奥さんは、出所者の過去を聞いて、最初にどう感じたか

 何とも。別に何とも思わない。

 私は、まず自分の周りにそういう人がいなかったっていうのと、初めて生でそういうことを聞いた…それプラス、自分にも色んな過去があって、自分は捕まらなかっただけっていうか…だけど、この人は捕まった…だから、自分と何の違いもないっていう風に思った。この人が(刑務所に)入ったからとか、だから私は違うっていう隔たりは無かった。

(イ) ありさんも、犯罪が比較的身近なところがあったから、元受刑者と聞いても特に何も思わなかったということですか？



そうです。私は悪い子だったから、前付き合っている人が刑務所行ったりしてて、身近だったんだよね。みんな、「プリズン行ってたんだよね～」みたいなかんじで（笑）。しかも、お兄ちゃんがそのときちょうど刑務所に入ってたから、すごい悩んで、色んな手続きとか…携帯の解約とか…（身近に出所者がいて）ラッキー！みたいな。それで相談したんだよね。で、電話番号を交換して、「相談に乗ってください」って。



その最初の頃の話が面白いんだよね（笑）。



最初は「浮浪者」って言われてた…。



すごい。靴とか、刑務所の番号が書いてあって。ボロボロで。そういう人と出会ったことなかった。しかも、超見下してたんだ（笑）。刑務所出所者、生活保護受給者、汚い格好、みたいな。（髪も）ボサボサで。「なにこの人（笑）」って。でもお兄ちゃんの相談に乗ってもらって、両親にも紹介して…家の2階で色々教えてもらって、両親も「すみません五十嵐さん。夕飯召し上がって」みたいなかんじで、仲良かった。



簡単に言えばね、刑務所から出てきたときに自分の目的があって、別に格好なんてどうでもいいし。ましてや、お金も無いのにね、そんなお金かけたってしょうがないじゃないですか。着れるものはそのまま着れば良いし、刑務所の番号書いてあろうが何だろうが…。周りがどう言おうが関係ない。確かに、美味しいものは食べたいけど…。

出会いから親しくなっていく道のり



俺の場合は、2回目の、（教会の）兄弟姉妹たちが集まってお互いに色んなこと話そうっていう集まりで、初めてLINE（参考：14 ページ右下「LINEとは…」）の交換をして。そこから色々だね。デートに誘おうとしたら、最初は断られた。断られたんだけど、2、3日後に、今度は逆にラインが入って、「デートしましょう」みたいな。で、そこで…最初から結婚という選択しかなかった。

（イ）五十嵐さんたちは？



デートは全部、修道院、教会。



彼女は、小さいときに教会に行ったことあると。で、一緒に洗礼を受けようということになって、そのためには聖書の勉強をしなくちゃいけない。僕はずっと勉強してたので、司教さまのところに行って、「一緒に勉強会に連れてきて良いですか」って許可をもらってね。毎週毎週、2人で通って一緒に教えてもらって。

**交際・結婚に際して、
家族や友人など、周りの反応**



うち（の教会）はもう、全員が反対だったね。全員が「何で?!」って。

（イ）Nさんの家族もですか？



俺の家族はいないもん。

（イ）Mさんの方は…？



家族っていうよりも、教会の兄弟姉妹だね。家族は、両親や弟とかは全然それはなかった。



え、お義父さんとお義母さんはちょっとあったよ。「え？」みたいなかんじだった。ただ、（Mの）弟のK君だけは、「いや、いいんじゃないの」って。



それは、弟とNが仲良しだったからね。はじめに2人が仲良くなって、私よりも弟の方がNを知っているから、両親にも、私からよりも弟が「Nさんはこういう人だよ。こういうことがあってね、でもこうなんだよ」っていうのを言ってくれて。だから、家族に関しては、初めは（Nのことを）知らないから…いきなり、何が起こったの？ってなるけど、ちゃんと聞けば、全然、壁をつくる人たちじゃない。（「え？」ってなったのは、）例えば、「受刑者だったから」とかいうのではない。

（イ）それは、交際のときですか？「付き合ってます」って報告したとき…？



いやもう、「結婚する」ってことから始まっているから。



それに対して、教会のまわりの兄弟姉妹の反応は、戸惑っていた。



複雑な思いがあったみたいだね。



やっぱり、それぞれが色々な思いを持っていたと思う。うちの母方の叔母とかは、やっぱり恐れがあるからだと思うけど、「もう縁を切りたい」っていうのも、正直、あった。



実際、縁を切られたもんね。



「申し訳ないけど、関係をやめたい」って言われた。それはやっぱりすごいショックだった。

(イ) …今も縁を切られている状態ですか？



そうですね。それこそ、この間、母方のおばあちゃんが亡くなって、当然、叔母も家族もみんな来る…そこに、Nも一緒に連れて行きたい、やっぱり旦那さんだし…って思ったけど、私はもう直接叔母とは話せないの、母と叔母が連絡を取り合ったときに、「申し訳ないけど、Nさんは連れて来ないでください」って（言われてしまった）。

(イ) 教会の皆さんとは、現在は関係を修復されたんですか？



修復っていうか、認めてくれている。



本心は分からないけど、（みんなが反対していたのは、私にもNにもそれぞれの事情があって、それで）「心配だったから」というのがベースに見えているので…。

(イ) ありささんの方はどうですか？



大変。友達はまず、みんな…地元のすごい仲良かった幼馴染は「は？」みたいな。「犯罪する人の気持ちなんて分かんない」みたいな感じで。もう、みんないなくなった。

(イ) でも、犯罪が身近にある環境だったって…。



それは、みんな悪いこととして育ってきてるけど、刑務所に入ったことは無いから、やっぱりどこかで（そこで線を引いて）見下してる…。



お義父さんも、大反対だったしね。



お父さんもお母さんも大反対。



すごかったね。もう喧嘩になる寸前だったもん。



家の2階でお兄ちゃんのことを相談してたから、「え？お前、（相談に乗ってたんじゃない）口説いてたのか？俺の娘を」と。いきなり「付き合う」と言ってきたから。「何やってたんだ！」ってかんじですごい怒られて。



お兄さんのことを相談してたときは全然大丈夫だったのに、それが結婚ってなったら…。



そうそう。「付き合う」と言ったらダメって…。「そんな人に娘はあげられない」と。

(イ) でもそれでも付き合っ、それで「結婚する」と言ったときは…？



I君が生まれてからだよね…（それまでは）もう全然音信不通で…。

(イ) 結婚式は…？



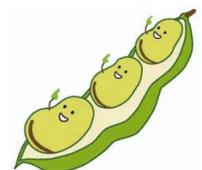
誘ったけど、「来ない」と言ってて。



結婚の挨拶に行くのに、もう僕たちじゃどうにもならないから、親父（代わり）と（母親代わりの）シスターKが彼女のところに行ってね、そしたら「結婚式の日取りも入籍のやつも白紙にしてくれ」と（言われて）…俺のお袋のところには、シスターKと俺と理事と4人で行って、「こういうわけで（結婚します）…」って。妹にすごい罵倒されたけれども…。



なんで妹が罵倒するの？





やっぱり、(僕が昔) めちゃめちなことやってたから、「兄ちゃんのおかげで私たちがどんな思いしてきたか分かるか」って。そういう思いがあって。ただ、最終的には、お袋は僕が席をはずしたときに、「弘志のことよろしくお願いします」って周りの人に言ったらいいですけどね。…それ以来は、(母と妹とは) 会ってない。ありちゃんのお義父さんお義母さんとは、やはり子どもたちができたので、今は大変ですね。可愛くて可愛くて…。僕に対してはまだ冷たいですけど。



でも最近、弘志くんに対してのご飯もつくってくれたりとか…お父さんはするようになってきた。



(結婚当時の態度とは) 全然違う…。変わってきてるね。



教会(からの反対) っていうのは無かったよね。結局、結婚式を挙げたのが、入籍から1年後で、マザーハウスの仲間たちがみんな来てくれて。



すごかったよね。



結婚ミサのときは100名近く来たのかな。披露宴も全部で80名近く来て。全部、刑務所から出て知り合った人ばかりだった。で、教会で行き会った人が証人になってくれたんだよね。今の副理事長のHさんご夫妻が結婚の証人になってくれて。

**現在も含め、交際や結婚生活で
嬉しかったこと、思い出に残っていること**



毎日が嬉しいからあんまり覚えてないな。毎日が本当に満たされているから。

(イ) こんなプレゼントや言葉もらって嬉しかったとか…。



物をもらったりとかあげたりとか、そういうのは全然お金無いからそんなことはしてないし、できてないけども…やっぱり、何かつまづきそうになったときに、神様の話がすんわり普通にできるっていうのが、一番の喜びかなって思う。(神様に) 立ち返れるっていうか。



私は、一番初めにNとディズニーシーに行ったとき(の出来事が印象的)。レストランで一緒にご飯を食べたときに、Nが食べる前に自然に「祈るね」って言うってお祈りしてくれたのが、今でもすごい嬉しくて、「ああ本当に(神様が同じ信仰を持った人を) 備えてくださったんだ」って。それが一番かな。

(イ) ありさんは…?



私は…お父さんに思い切って会いに行ったんだ。友達と、「許してもらおう」って。(お父さんに会うのは) 久々だったから、「きっと許してくれるだろう」っていう思いで行ったら、すごい怒鳴られて、殴られて。しかもお店の中で、営業中に。すごい傷ついて、それで家に帰って泣いてたの。そしたら、(弘志くんが) 一緒に泣いてくれて。なんかそのときに、「私って大切にされてるんだ」みたいなことを初めて…生まれて初めて実感して、「この人…私を大切にしてくれてる」って…すごい印象的。初めてだったから。そこで(弘志くんに対する頑なな心が) 打ち砕かれた。



俺はやっぱり、付き合ってからすぐの頃かな…結局、マザーハウスを立ち上げた部分で、夜も遅いし、あちこち飛んでいっていたときに、(ありちゃんに) 何の相談もしなくて、ぱっぱぱぱやって。それでも、結婚式の色々なことに関しても、(こっちで勝手に決めちゃったから) 不満はあったと思うんだけど、それ全部受け入れてくれてね、好きなようにやらせてくれたっていうのが…申し訳なかったっていう部分もあるし、有り難いっていう部分もある。こういう活動をしていると、出所者がどんどん出てくるじゃないですか。普通だったら、「一緒にご飯」なんて言ったら抵抗もあると思うけど、(出所者) が来たときにご飯をつくってくれたりとか、それはものすごく有り難いよね。

**現在も含め、交際や結婚生活で
大変だったこと、つらかったこと**



いっぱいあるね。まず、本当に(私のことを) 受け入れてくれるのかっていうことを試されてるのかなって(感じる出来事があった)。逆に、私はNを受け入れたって言うけど、本当に受け入れてるのかっていうのもすごい試されたし…。

今ひとつあるのは、両親がいない間、おばあちゃんのお家に2人で寝泊りしながら、1週間くらい、おばあちゃんのケアのために通ってたときがあって。特にNが、朝ごはんつくったりとか、献身的におばあちゃんの相手をしていて、おばあちゃんもすごいNのことを気に入ってくれていた。それが、両親が戻って私たちが帰った2、3日後に、おばあちゃんのところから現金が130万円くらい無くなって。そのときに、おばあちゃんは「Nがやった」と。正直、私も「Nがやったのかな」って思った。結局、おばあちゃんに疑われたっていうのも含め、Nの中で色々な葛藤があったけど、だんだん…とにかく向かい合うように、今は毎週のようにおばあちゃんのところに行って、教会も一緒のところに行くっていう決断を一つひとつしてきている。でも、2、3日前に、やっぱりおばあちゃんの中では実はまだわだかまりがあるっていうことを聞いて、「毎週来られるのはこわいストレスだ」って言われて。やっぱりそういう大変さはあるよね。



そのお金はまだ見つかってないの？



うん、結局見つかってないみたい。



俺は、疑われてても普通に（Mの）実家に行って…やっぱり嫌だけど、一生懸命にしても、そういう風に見られてるんだなって思うと、気持ちは萎えるよね。だって、お義父さんが来て「お金が無くなったんですよ」っていう話がスタートしたときに、「あ、これはもう絶対俺を疑って来たんだな」っていうのが瞬間的に分かったからね。やっぱり、自分が刑務所行ってたからこういうことになるんだなって。そういう（何かあったときに疑われる）恐れはずっと持ってた。



でもそれは、刑務所に行ってたからではなくて、（今までに）何回か試されたことはあったでしょ？（過去に）私のお金を引き出して、理由はあったにしても、（勝手に）使ったっていうことが2回くらいあって、（Nが）おばあちゃんに（お金を）借りたこともあったし、（私の）両親に立て替えてもらったこともあった。そういうことがあったから、疑われてしまうっていうのは、刑務所にいたっていうことよりも、その（出所した）後に…おばあちゃんにしても、両親にしても、私にしても、（何かあったときにNを疑ってしまうようなことを）経験してるので…だから疑ってしまうのは、もうしょうがない。



だからって、（おばあちゃんのお金を盗った犯人に）結び付けられるのはちょっと…。



でも、そこ（＝出所後の行動が原因）だと思う。

（イ）ありささんたちはどうですか？



私たちは最初、埼玉に住んで。（弘志くんは東京の方で仕事していて）忙しいから、帰ってくるのが遅くて、会話する時間がない。それがちょっと…気持ちが一緒じゃなかった。「話そうよ」って言っても、「忙しいから」って。「じゃあご飯食べる時だけでも」って言っても、「いや忙しいから」って、パツといなくなっちゃうから…それが寂しかったかな。



ひどい。俺よりひどい。



そのときは、「1年で生活保護は切ろう」って僕は決めてた。「どんなことがあっても1年で切ろう」って。そのときにたまたま、ある社会福祉法人の理事長さんが受け入れてくれたんですよ。「仕事に来なよ」って。そこで委託事業をやってお金をもらいながら、マザーハウスをやって。でも、仕事は東京だから、東京でばんばんやってたら、（埼玉の家に）帰るのが夜中の2時か3時になるんですよ。で、朝は一番で出てくるじゃないですか。だからやっぱりそれは本当に申し訳ないなあって思います。

今でも思ってるのは、やっぱり、なかなか家族の時間が…。（逮捕者が出たりして警察に）呼び出されたら行かなくちゃならないじゃないですか。待った無しで。問題が起こったら、今は東京から群馬の支部の方に飛んでいったり…。子どもが2人いて、お風呂なんかも、かみさん1人でやるっていうのは申し訳ないなあって。でもこれは全部、神様が与えてくれたもので、それは絶対祝福してくれてると思ってるから。キリストがそうだった。友のために自分の命を捧げなさいって。

つらかったときにどうやって乗り越えたか



俺は祈った。神様に、「助けてください」って。



やっぱり、「助けて、神様」かな。「なんでこんなことが起こるの！」っていう叫び…だから、祈りだよ。

パートナーへの思い

 なくてはならない存在。たまに、「離婚だ！」とか思うけど（笑）。

 やっぱ、感謝だよな。感謝でしかないかも、もう。

 （弘志くんは）働き蜂だよな。

 家族があるからこそ頑張れる。子どもたちはね、やっぱり希望ですよ。あとはマザーハウスっていう家族もそうだし、それはゆるぎないかな。…あのね、結婚するんだったらね、やっぱりこわい人っていうか。

 失礼…。

 こわいっていうより、強い人。

 相手をどう思ってるかっていう質問でしょ？

 僕にとってこわい人です。

（イ） 良い意味ですか？（笑）

 良い意味です。

2人の時間の過ごし方（幸せな時間など）

 うちの、仕事で帰ってきてお互い疲れたときなんかは、安いコンビニのワインを飲みながら、ドラマを観る。それが一番の幸せかな、今。ね。

 そうだね。

 2人（で過ごすこと）はないから、家族だよな。

 子どもがいるからね。どうしても子ども中心になるよね。

 （幸せな時間は）一緒にいるときかな。あんまり一緒にいることがないから。車の中でも、ご飯食べてるときでも（一緒にいるときが幸せ）。

パートナーへのメッセージ （好きなところ、直してほしいところ）

 好きなところ…いっぱいあるよ。

（イ） 一番好きなところは？

 一番好きなところ…手がかかるところ。しょうがねえなって。

 何だろう…なんかもう、その存在で満たされてるかな。良くも悪くも。

 直してほしいところは、ありすぎて言えません（笑）。時間が足りません。（Mは）今のままでいいです。

 好きなところは、怒らないところ。何言っても怒らないところ。

 へえ～すごい。

 この前聞いたんだ。「怒らないよね」って。そしたら、「どうせこの人に言っても分かんないから」って、ぼろっと本音が出たんだよね（笑）。ひどい（笑）。直してほしいところは、お風呂入ってほしい。どんなに遅く帰って来ても、お布団とかシーツは全部綺麗に洗ったのに、その日にお風呂入らない（で寝る）の。それくらいかな。あと、手を洗ってほしい。

 それ、私も言われちゃうかも。私、疲れちゃうと次の日シャワーだもん。

 だって、眠くて眠くてさ、風呂入るところじゃないと思うよ。

 まず寝たいって（思う）。



(イ) 五十嵐さんは？



好きなのは、黙って何でもやってくれるところ。「ご飯つくってほしい」って言えば、つくってくれる。それも、僕の方だけじゃなくて、当事者が来たときなんかは、みんなの分のご飯もつくらなきゃならない。そのときに、嫌な顔もせずにつくってくれる。いつも思うのは、「ありがとう」って。感謝だよ。ただ「ありがとう」って。直してほしいところは、無いね。



このまま女王蜂のままです (笑)。



直すところ無いだろ、ありちゃん。ほんとありちゃんがいるから、五十嵐さんがやっていける。

受刑者の皆さんへ、メッセージ



一番難しいな…。

(イ) 五十嵐さんはありますか？結婚っていうテーマで。



暗闇にいても、必ず光はある。本当に自分で自分を変えていけば、自分の人生っていうのは、何でもできると思う。やっぱり、その部分があるからこそ、結婚もできるだろうし。自分のことを変えなければ、そばに誰も来なくなると思う。自分が変わって、本当に、自分で頑張っていこうって努力していくからこそ人は認めてくれるし、そういう姿を見せるからこそ、女性もね、「ああ、この人だったら」って思うんだと思いますよ。それ(=自分自身の努力)がなくなったら、ダメだと思いますね。



事務局にいて、よく手紙とか読むけど、「出所したらマザーハウス行きます」って言った人間は、1人も来なかった。だから、最初から、行くからどうのこうの、と言うんじゃないで…こっちはただ単純に、刑務所に戻らないようなことを考えて生活してほしい。現実的に見て、誰かのためにとかじゃなくて、とりあえず自分がなんとかならない限り、人のことなんか何もできないっていうことは、俺がよく感じてるから。それが一番かな。とにかく、誰かのためにとかは考えないで、まずは自分のためだけにやってほしい、ということですね。



結婚したら、奥さんを、家族を大切にしてほしい。それだけかな。



父の言葉を借りることになっちゃうけど…過去は変わらないけど、過去の意味は本当に変わるから…本当に、イエスさまに出会ってほしい、イエスさまを探してほしいなって。

相手の夫婦への質問



ありちゃんへ。(夫には、)最低、何時には家に帰ってほしいですか。



もう、(夜いないことに)慣れてきちゃった。せめて日曜日だけは、家族としてほしい。平日はしょうがない…。



日曜日は一緒に講演会に行ったり…。



講演じゃなくて公園に行きたい！やっぱり子ども中心に…。



質問は無いけど、感謝ですよ。

(イ) 相手のご夫婦に？



そうですね。やっぱり、マザーハウスっていう組織をやってるっていうのは、自分ひとりだけではできないわけですよ。色々なポジションとかがあって、協力者がいないとできない。Mさんには迷惑もかけるし。こういう活動をやってると、急に呼び出されたりして、どうしてもぼくが(コーヒー販売などに)行けなかったときに、代わりにNさんに行ってもらわなくちゃならないときもあるし、それは夜遅くなる時だってあるわけですよ。そういうとき、申し訳ないなあって…そういう部分はものすごいあるよね。自分ひとりではできないから。特に、矯正施設にいる人が出てきたときには、問題っていっぱいあるからね。



Mさんへ。「この人と結婚しよう」って思ったポイント。「この人と一緒に、ともに過ごしたい」って思ったきっかけ。



「ともに歩みたい」という風には考えたことないかもね。ある意味、決断だったのかな。私を受け入れてくださったイエスさまがいるから、私もこの人を生涯愛する、っていう決断だったかな、一番初めが。で、その決断に、感情が全部ついてきたっていうところかな。

初めは選びだったと思う。「この人と一緒になったら」とか、たぶんそういう風に考えてたら、色んな問題あるよね。例えば、(Nが)生保(で生活していたこと)もそうだし、色んな問題があったと思うけど、そういうことを置いて、「この人を私は本当に愛する」という…きつとイエスさまの愛を知ったから、「だったら私も同じようにこの人を愛するっていう決断をします」と。そこがあって、その後に本当に感情的な、「こういうところが優しくて」とか「(この人と一緒になれて)良かった」というものが(出てきた)。スタートは感情論ではなかった。選びかな。選ばせてもらったかな。



五十嵐夫婦へ。私自身の育った環境もあると思うんですけど、私の中では、1番がイエスさまで、2番が結婚相手、3番が子どもたちで、っていう風に大事なんじゃないかなって思うんだけど、2人はどうかなってというのが聞きたい。



1番はやっぱり神様だしね。キリストなんですね。たしかに家族って大事だけど、もしキリストが目の前で苦しんで助けを求めていたときに、「僕は家族がいるから行けない」「僕、子どもがいるから行けないよ」と(僕は)言えないと思うんですね。(家族を置いて他の人を優先させることは)つらいかもしれないけど、(困ってる人を助けるときには何らかの)犠牲を払うわけだから、その犠牲を払うからこそ、神様が家族全体を守ってくれるっていう。ものすごく、そういう…自信ではないですけど、それは、マザーハウスをやりだしてから、ずっと感じてる。

夏場に10日間、霊操っていう霊的な学びをやったときに…きついですよ、家族と全員離れて。特に、生まれたばかりの1くん…やっぱり最後は、子どもとかかみさんのことをずっと想ってた。でも、それは神父さんに「雑念だ」と(言われた)。「イエスさまだったらどうするかを考えなくちゃだめだよ」と言われたときに、

やっぱり、自分が「本当に助けてほしい」とって言ったとき、神様って(自分のことを優先させずに)助けてくれるじゃないですか。それってお恵みであるし、聖書の言葉でもね、「タダで与えられたんだから、タダで与えなさい」という言葉があって。(それを実践するときに壁となるのは、)自分の時間や様々なもの…そういう自分のものって、なかなか手放したくないわけですよ。



私も一緒ですね。もし、(刑務所から)出てきた人が困ってたら、とりあえず行って…「そっちの方が大切だから、ただ目の前の人助けて」と。その気持ちは同じだから、だから(弘志くんの帰りが)夜遅くても、まあしょうがないなあって。やっぱり神様のために働いてるんだからって。我慢できるっていうか、それが普通っていうか。それをもし、家族を一番に優先していたら、後悔しそうで。(家族を優先させて見捨てた)その人がもし、そこで転げ落ちてしまったらって思ったら…「ああもう、(私たちのことはいいから)そっち行って」と。



同じ思いなんですね。

(イ)インタビューは以上です。ありがとうございました！



スマートフォンのアプリの1つで、メールの超お手軽バージョン、というイメージです。

右の写真はLINEの画面です。右側が自分、左側が相手の発言をあらわしており(名前は黒く伏せています)、相手が自分のメッセージを読んだら、「既読」の印がつきます。

今月号のLovely DAYsにも登場します！



ささきみつお コーナー

天国行きの入国査証（ビザ） を持っていますか？



「ニューヨーク空港で入国を拒絶されて、日本に戻ってきました。どうしたら良いのでしょうか？」

知人の日本人女性から電話があった。彼女は日本で米国人男性と結婚し、ハネムーンでアメリカに3日前に飛び立ったばかりだった。

「えっ、一体どうしたんですか！」。びっくりしてこう尋ねると、「米国人の妻だから当然入国できると思っていたら、入国審査官が、ビザが無いから入国を許可できないと言うのです」とのこと。

というわけで、アメリカ国籍の夫は入国したのに、日本人妻は一人さみしく実家に帰ってきた。彼女が正式にビザを申請してアメリカに入国する許可が下りるまで、3か月もかかった。

前科3犯、受刑生活のべ20年の五十嵐弘志さんは、獄中で罪を悔い改め、キリストを信じて熱烈なクリスチャンになった。

出獄してからは、大々的に受刑者支援の働きをしていることが注目され、米国のクリスチャン団体から、集会で証してほしいと招聘された。それで彼はアメリカ大使館でビザを申請したが、前科があるためにビザ発給が拒絶され、渡航できなかった。「大統領の特別入国許可でもない限り、米国には入国できない」と言われてしまった。

日本人であれば、誰でも日本のパスポートを所持することができる。パスポートとは、その所持人が日本人であることを日本政府が証明する証明書であり、渡航先の外国政府に対して、所持人の入国の便宜を図ってあげてほしいと要請する要請書（推薦状）である。

しかし、短期の旅行等の場合を除いて、原則としてパスポートだけでは外国に入国することはできない。外国政府は、所持人をその渡航目的に従って審査したうえで、入国を許可するかどうかを決めるのである。

それでは、天国に行く場合はどうか？

誰でも、死ねば天国に行けるのではないかと特に、善いことをして表彰されたような人は、当然、天国に行けるのではないかと私はかつて、そう思っていた。

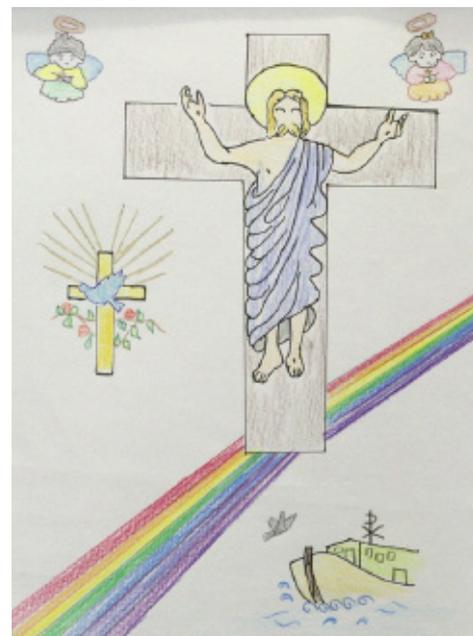
だから聖書にすごい違和感を覚えた。なぜなら、天国に入るには、特別なビザが必要だと書かれているからである。しかも、天国では、自薦他薦のパスポートは一切、通用しないというのである。

ある時、聖霊の働きで本当の真実を悟った。神の目から見れば、人は、限りなく律法違反の罪を犯し続けている罪人である。神の法廷で死刑判決が下された死刑囚である。この罪にまみれた私が、天国という、罪の全く存在しない神の国に行けるはずがない。

幸いにも聖書には、誰もが天国に入国し、そこに永遠に居住できるビザを取得する方法が書かれている。

自分は神の目には途方もない罪人であるが、神の御子イエス・キリストが自分の代わりに死刑の刑罰を受けてくださったので、自分の全ての罪は赦免され、さらに、イエスが3日後に復活してくださったので、自分が神の子にされた、ということ信じれば良いのである。

「十字架と復活によって自分の罪が赦され、神の子になったのだと信じる信仰」こそが、天地万物の創造主、全知全能の父なる神、すなわち天国の大統領が、聖霊の証印を押して発給して下さる「天国への特別入国許可証」なのである。これは、あなたが永遠に天国に居住できるという「天国の国籍証明書」でもあり、あなたが神の家族であるという「天国の戸籍証明書」でもある。



堀の中のたより

- * 無題の文章には題名をつけさせていただきました。
- * 誌面の都合上、表現を変えたり、原文の一部を略した箇所がございます。
- * イニシャルは、苗字・名前の順です。

春と秋 ～生き方に関する心～



G刑 K・T

春が一番好きだった私は、秋も大好きになりました。春は希望と歓喜、秋は充実と感謝、春は爽やかさ、秋は豊かさという具合に、両者の違いを知ったからかもしれません。生前の母と話していました。今、父と話しています。「自信を持って、充実と感謝の時を過ごしましょう」と。

命は神様からのプレゼントです。寿命を私たちが決めることはできないのです。私たちが決められるのは、「いかに生きるか」ということです。喜びと感謝に満ちた日を重ねることは、若さと身体の内から遠ざかる人の最高の美しさと思うようになりました。

春も好き、秋も好き…季節は一年ごとに、春も秋も運んでくれます。

人は、人生としては一回きりです。しかし、心のお遊びができる頭脳を、神様がくださっています。「今が一番若い」と思うもよし、「万年青年」と思うもよし、「一年一年繰り返す百回人生」と思うもよし、「失敗は成功の素」と豊かに経験を積むもよし…生き方に関する心は、神様が一人ひとりに使いきれないほど与えてくださっています。

私は、70歳になってからはじめて、このことに気がつきました。行為は阻止されることはあっても、心は誰も踏み込むことはできないのです。

春が、私が人々を愛する時ならば、秋は、人々が私を愛してくださる時…。



資格と就職と再犯



K刑 U・M

《 奈良少年刑務所の閉鎖 》

現在、最古の刑務所である奈良少年刑務所が、老朽化などのため、3月31日をもって閉鎖されます。赤レンガ造りで、1908年に建てられた「明治の五大監獄」の一つ。アーチ形の表門や、放射状に伸びる5つの収容棟など、デザイン的にも評価が高く、昨年10月には、国の重要文化財に指定するよう、文化審議会が答申しました。

2010年には、建物取り壊しの恐れもあったそうですが、長年に渡り、先進的な矯正教育でも知られ、詩の授業を受刑者に教えてきた寮美千子さんや、「建物も宝だが、培われてきた教育や地域の人たちとのつながりも大きな宝」と、自治会長も保存活動に加わり、保存が決まりました。

奈良少年刑務所は今度、民間資本による活用が検討されているそうです。

《 資格と就職と再犯 》

この奈良少年刑務所は、矯正教育や職業訓練に積極的に取り組んでいます。4分の1の受刑者が、13種類の職業訓練に参加していたほどです。私も理容の職業訓練を受けるため、他施設から2年間の予定で来たのですが、閉鎖に伴い、関東にある訓練施設で今年の3月まで残りの訓練を受けることとなったのです。

資格を持っていると、就職率もアップするそうです。そのため、奈良少年刑務所は再犯率の低さを誇っているのかと思います。

法務省の犯罪白書によると、一般刑法犯の再犯者は増え続けており、2014年では47.1%（一般刑法犯の検挙人員中の再犯者率）を記録しています。法務省の別の調査では、保護観察終了時に無職だった人の再犯率は29.8%で、この値は有職者の再犯率の約4倍にもなるのだそうです。このことから、奈良少年刑務所の取り組みと、その重要性を尊重し、閉鎖ではなく別のかたちで残してほしいと私は思いましたが、今後、どのように生まれ変わるのか見守りたいと思います。

人権が軽視されたままでは、 表面的な体制だけ変えても 意味が無い



サ・ヴァ・アレ

2月号の『たより』に、立命館大学での講演後アンケートが載っていましたが、どの意見もとても勉強になりました。その中でも特に印象に残ったのが、受刑者の創意工夫に対する否定への批判と、内面が変わる見込みの無い体制への意義を問うものでした。こういった、普段はクローズアップされない部分が多くの方に知られていくことは良いなと思いつつ読みました。

例えば、創意工夫することを否定することで、被害者のいる罪を犯した人が更生するでしょうか？内面が変わらない体制下で、薬物を使った人が良い方へ変化できるのでしょうか？どちらも、普通に物事が考えられる人なら、答えは明白なはずですが。今、法務省は教育をメインとした刑罰の新設をしようとしています。根本的なところが今までと同じだったら、結局、何も変わらないような気がしてなりません。大切な部分が置き去りにされたままでは、意味がありません。

少し前に、私が幹部職員に対して謝ったところ、何故か職員が怒り出し、連行されることになってしまいました。ただ謝っただけなので、当然のように工場へ戻されましたが、そもそも謝っただけで怒られてしまうことが世の中にはあるのでしょうか。これだけでも充分、理不尽ですが、この職員は、私が暴言を吐いたと嘘を言っていたことが分かりました。こんなことをする人間が処遇のトップにいるなんて、本当に驚かされます。

「その国の本当の姿が知りたければ、一番低い立場になってみれば分かる」という、ネルソン・マンデラ元南アフリカ大統領の言葉を本で読みましたが、まさにその通りだなと思います。

いくら経済的に豊かになり、先進国と胸を張っていても、人権が軽視されているのは、文明国ではないでしょう。一党支配や世襲国家を世間では笑っていますが、実情は自分たちの国も紙一重だと気づいてもらいたいです。

Lovely DAYs



以前、マザーハウスが引受人となって関わっていた少年Aと、理事長のLINEのやり取りを見て驚いた。



なんで電話でねーんだよ



既読ついてますよ



LINEは見れるのに
電話はできないんですね



ビビリですか？

警視庁にきています。
なんで君にびびるの、
あとはSが対応します。
多忙なため失礼します。



おけ

一見、無礼者だが、少年Aは家族から見放され、愛情不足で育ったのだ。人間不信で、人と関わろうとしない。裏を返せば、この文面からは、彼が愛に飢えていることが感じられる。

一方、理事長より年上の女性の当事者Sは、マザーハウスにとっても感謝をしてくださっている。人を大切にする、とても謙遜な人だ。お世話になったことに感謝して、自分でできることをお返しするのは当たり前だと言う。



私がこうして生活できるようになったのは、代表たちのおかげです。まだまだお返しできていません。

本当の孤独を知る人は、愛が分かる人。
きっといつか少年Aも、大切にされていたことに気がつき、今度は人を大切にする日が来るだろう。

塀の外のたより

出所してから2ヶ月



U・K

11年。それが私に下された罪の重さでした。その年月を刑務所で過ごしてきました。

正直なところ、最初はてきとうな気持ちで受刑生活を送っていましたが、その考えは誤りだということに、遅くなってからではあるものの、気づくことができました。

そのきっかけを与えてくれたのが、マザーハウスの活動です。「人のために、自分が持っているものを分け与えた」という、マザー・テレサの生き方が名前の由来であることから、マザーハウスの活動に強く共感を持ったことで、自分という存在について考えるきっかけとなりました。

現在の私は生活保護を受け、まずは日々の生活に馴れることから、人生の再スタートを切りました。

受刑中は、社会復帰のあれやこれやを簡単に考えていましたが、世の中は想像を上回る速さで変わっていました。出所後少しした頃は、体も心もついていかず、そんな自分に苛立ち、挫折しそうにもなりました。

しかし、今の私には心配してくれる仲間や先輩がいます。その人たちの悲しむ顔を想像したら、挫折はただの甘えだということに思い至りました。

この『マザーハウスたより』を読んでいる方々へ、何のために受刑生活を送っているのか、もう一度考え直してみることを勧めます。何のためかが分かれば、今抱えている悩みも、解消するかもしれません。

私が好きな言葉で、「できないのは、できないわけではなく、ただやっていないだけ」というものがあります。つまり、やってもいないのに「できない」と嘆くのは、間違いであるということです。

私が更正し、一歩ずつでも前に進み始めたときこそが、真の社会復帰となると思います。私もまだまだ未熟者なので、皆さんと一緒に、一歩ずつ前に進みたいと考えています。

私が刑務所にいたときの出来事



ブロッコリー

私は、刑務所では、みんなの食事を作る炊場というところで作業をしていました。朝は他の作業場より早くから、夕方は他の作業場より遅くまで、冬はかじかんで冷たくなった手で、夏は暑い中で働き、本当に大変なところでした。そんな中でも、みんな一生懸命にやっていました。

ところが、炊場の担当さんは意地が悪く、すぐに大きな声を出して怒鳴る人で、受刑者を苛めていました。だからみんな、「炊場を辞めたい」と言い出すのです。私は、「でもここは刑務所なのよ。辛抱して、一日も早く社会に帰れるように頑張ろう」と、みんなを励ましていました。

ある日、いつものように担当さんが大きな声で怒鳴ったので、びっくりした1人の受刑者が、洗っていた豆をこぼしてしまいました。すると、意地悪なその担当さんは、豆をこぼした受刑者のところに行き、「お前、何をした」と言ってむちゃくちゃに怒って、「早く拾って量れ。お前の報奨金から引くからな。それと、捕まえて取り調べもするからな」と言いました。その受刑者は泣いていました。

私は、それまでみんなに辛抱するように言ってきましたが、その時は自分の方が辛抱できなくなり、担当さんに飛びかかって、胸ぐらをつかんで、「こらお前、受刑者を人間と思っていないだろうが。いい加減にせんか」と殴ろうとしたところに、監視カメラで様子を見ていた他の部屋の先生方が走って来て、止められました。

私は所遇部長のところ連れて行かれ、話を聞かれました。私は今までのことを全部話し、「私も炊場で働きたくない」と言いました。



そうしたら、「お前が辞めたら、これから誰がみんなを守っていくのだ」と処遇部長に言われました。続けて、「すぐ炊場に帰れ。そして、お前が担当を変えていけ。みんなの気持ちを担当に訴えろ」と言われ、私は少し悩みましたが、炊場に帰り、私の気持ちや、みんなの一生懸命な気持ちを意地悪な担当さんに伝え、炊場で頑張ることになりました。

その後、すぐに私が炊場の班長になり、みんなを引っ張っていく役目を担うことになりました。

私が出所する前、家庭寮に入ったとき、意地悪な担当さんが来て、「あんたに色々教えられた。私は若いため、受刑者になめられたらいけないという思いがあった。駄目な担当だったと思う。これからはよく考え、良い担当になるよう頑張る」と言ってくれました。

色々ありましたが、最後は本当に炊場で頑張ってた良かったと思いました。



育児日記

1君は、3月24日で3歳になりました。

何度注意をしても妹のKちゃんを泣かせるので、お誕生日プレゼントとして地獄の絵本を渡して、一緒に絵を見ながら説明をしました。その後、食事中にゴミを床に捨てたので、「ゴミ箱に捨てないと地獄にいつてしまうよ」と言うと、今度は手渡しでゴミを渡してくれました。ある時、Kちゃんを叩いたので、「人を叩いたら閻魔王に舌を抜かれちゃうよ」と言うと、すぐに「ごめんね」と謝り、Kちゃんにおもちを持ってきてあげていました。地獄の絵本、効果大です！今度は天国の絵本も見せたいと思います。

Kちゃんは鼠径ヘルニアで手術をしました。術後の経過は順調で、至って元気です！叩かれて泣いても、すぐにここにこしているのです、本当に尊敬です。

ご寄付 ありがとうございます！！

2月16日～3月15日の寄付金

計 266,144 円



行事予定

▼4/17 18:00～

APS（アフター・プリズン・サポート）研究会
（場所未定）

▼4/24 18:00～

池袋・ワーカーズコープにて、勉強会

▼5/12 13:00～

京都保護司会（場所未定）

編集後記



皆さま、こんにちは！

『マザーハウスたより』を読んでくださり、ありがとうございます。4月号は、桜をイメージしてピンクを多めに入れてみました。

「出所者の声」は前半と後半に分ける予定だったのですが、どこで区切るか迷いに迷った挙句、「ええい！」と丸ごと載せることにいたしました（笑）。「出所者にこういう質問してほしい」というリクエストをいただきましたが、今回は結婚中心の話題となり、反映できなかったので、次回のインタビューのときに反映させていただきますね！

それでは、花粉症に負けずにがんばりましょう！

来月号もお楽しみに！

マザーハウスたより 編集局

P.S. 『たより』に掲載するイラストを募集中です！

定期的にコーヒーを購入し、販売して
くださっている教会・修道会（順不同）

＼ こちらでもお求めになれます。／

- | | |
|---------------|----------------------|
| カトリック茅ヶ崎教会 | カトリック足利教会 |
| カトリック北仙台教会 | カトリック神田教会 |
| カトリック所沢教会 | カトリック松戸教会 |
| カトリック中和田教会 | 日本カトリック神学院 |
| カトリック布池教会 | カトリック戸塚教会 |
| カトリック東山教会 | カトリック桃山教会
(平和環境部) |
| カトリック浜松教会 | カトリック多摩教会 |
| カトリック新子安教会 | カトリック西千葉教会 |
| カトリック菊名教会 | カトリック下井草教会 |
| カトリック碑文谷教会 | カトリック元寺小路教会 |
| カトリック東仙台教会 | ドン・ボスコ社 |
| イエズス会日本殉教者修道院 | |

ご協力ありがとうございます

マザーハウス×きしゃぼん古本募金

書籍・DVDを寄付していただくと古本募金になりマザーハウスに還元されます。詳細はマザーハウス×きしゃぼん係にお問い合わせください。

TEL 0120-29-7000
送り先 〒 358-0053
埼玉県入間市仏子 916

便利屋サービス《ラウレンシオ》

良心的価格で不用品処理、遺品整理、掃除などを真心こめてさせていただきます！もちろんお見積もりは無料です。この事業は「出所者の就労支援事業」の一環でさせていただいております。収益の一部は、出所者の更生改善と社会復帰支援事業に充てられます。

連絡先 080-4614-8508
FAX 03-6659-5270
MAIL lawrance@motherhouse-jp.org

★ラウレンシオとは3世紀にスペインで生まれ、料理、掃除等の下働きの中に神の臨在を見、歓喜した聖人。

—マザーハウスたより 4月号—

発行責任者／五十嵐 弘志 2017年4月15日発行

〒 130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-17-102



ルワンダ・コーヒーの栽培は、1,300～2,200メートルの高地栽培、昼夜の寒暖差と豊富な雨量に恵まれた天候、肥沃な火山灰質の土壌、パーフェクトな生

産環境で天塩に掛けて有機肥料を使用した栽培で行われています。豆は手で収穫され、完全洗浄、天日乾燥を経て、一粒、一粒、手で選別されます。それらの丁寧な作業が、ルワンダの大粒で美しいグリーンビーンズ（生豆）“アラビカ種ブルボンマヤゲイス”を生みだしています。

社会貢献

この商品は全て出所者が製造から販売に携わっており、収益金は全て受刑者の更生と出所者の社会復帰支援及び施設建設資金等に使用させていただきます。

マリアコーヒー購入について

ご購入の申し込みやお問い合わせは Fax、メールにてお受けいたします。

送料別

- 200g [粉・豆] …………… ¥900
- カフェドリップ（一人用）10g …………… ¥100

FAX 03-6659-5270
MAIL maria_coffee@motherhouse-jp.org

マザーハウスへのご支援は下記の通りです。

- ★ 郵便振替口座 00170-0-586722
- ★ みずほ銀行 新宿支店 普通口座 2376980
口座名：特定非営利活動法人 マザーハウス
トクヒ）マザーハウス

- 正会員 年会費 …………… ¥5,000 × 1口
- 賛助会員 …………… ¥3,000 × 1口
- 社会復帰支援 …………… 寄付

info@motherhouse-jp.org
http://www.motherhouse-jp.org
https://www.facebook.com/v.t.nicolas
http://www.facebook.com/motherhouse1964

TEL 03-6659-5260